

泌尿器科医のためのクリニカル・パール

いま伝えたい箴言・格言・アフォリズム〈下部尿路機能障害/ 小児・女性・アンドロロジー/結石・感染症/腎不全編〉

企画にあたって

今月号は前回に引き続き、クリニカル・パールです。今回は良性疾病を特集いたしました。クリニカル・パールという用語に関して、今回「腎移植」(977頁)を執筆いただいた篠田和伸先生(東邦大学医療センター大森病院)が詳細な定義を書いてくださいました。Evidence based medicineは医療の根幹をなすものですが、それだけでは語りつくせないものさしがあります。Narrativeな先人の言葉に頼りつつ、自らのフェーズを上げるのです。

「クリニカル・パールにエビデンスはあるのですか？」と聞かれると、「ない」と答えるしかありません。しかし、エキスパートの豊富な経験から正当性が担保されていて、少なくとも頭の片隅に残しておく、将来役に立つことは確信できます。頭のなかに残るためには、キャッチーでなければなりません。つまり、記憶に残る言葉の力を借りるわけです。特に今回は泌尿器科学の範疇の広さを示すさまざまな良性疾病です。これらの疾患すべてでエキスパートであることは無理だとしても、専門医は知っておくべきものばかりです。若い医師はこのなかから将来の専門を選ぶかもしれません。患者さんが明日外来を訪れてくるかもしれません。

篠田先生は孫子の兵法から、「故ニ兵ヲ用ウルノ法、ソノ来タラザルヲ恃ムコトナク、吾ノ似ッテ待ツ有ルコトヲ恃ムナリ」を引用されています。「敵の来襲がないことを期待するのではなく、敵の来襲に備えて万全の準備をすることを頼みとせよ」という意味です。クリニカル・パールでの学習は最もハードルが低い学習法ともいえます。軽い気持ちで読み始めて、深みにはまっていただければと思っています。それがわれわれの狙いでもあり、「新しい世界」に踏み込むきっかけとなることを期待しています。「新しい目」による日常臨床への招待です。

最後に1つ私から。「幸運の女神は準備ができているものに微笑む」(ルイ・パスツール)。

慶應義塾大学医学部
泌尿器科学教室

大家 基嗣